

# 新潟都心の都市デザイン

—開港 150 周年を契機に次世代のまちづくりを考える—

---

## 目次

- |   |                 |        |
|---|-----------------|--------|
| 1 | はじめに            | ……………1 |
| 2 | 新潟都心の都市構造の変遷と今後 | ……………2 |
| 3 | 新潟都心の都市デザイン     | ……………3 |
| 4 | 次世代のまちづくりに向けて   | ……………4 |

# 1 はじめに

## ①なぜ都市デザインを描くか

求められている拠点性の向上

- 少子・高齢化に対応し、持続可能な都市になるため、市民が集うにぎわい創出や交流人口の拡大による活性化が不可欠

拠点性向上のための都心部の役割の明確化

- 中枢的な業務・商業機能が集積する都市の象徴的な市街地
- 様々な魅力・交流から、新たな情報発信や文化が創造・発信される場所
- 高次都市機能が集積した「都市の顔」

新潟はまちづくりの節目を迎える

- 2018年度は開港150周年や新潟駅の高架駅第一期開業など新潟のまちづくりが大きな節目を迎える

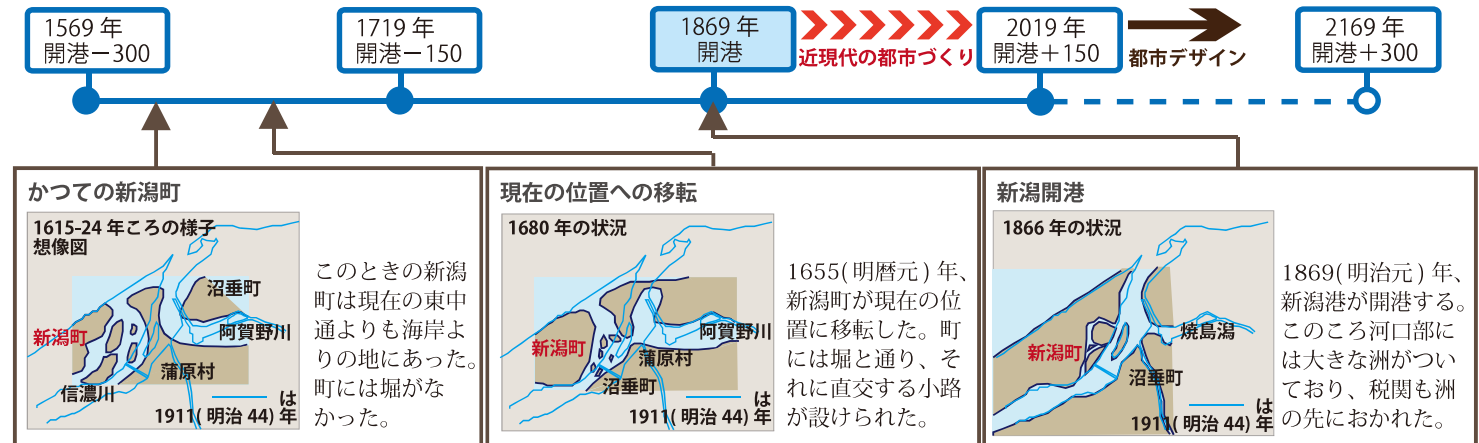
### 都市デザインのポイント

- 新潟がこれまでの歴史の中で蓄積したものを集積し、それが市民のくらしと結びつくような、魅力ある新潟のイメージが持てるデザイン
- コンセプトが明確でわかりやすく、共通の視点をもつことでこれからのまちづくりに活かせるデザイン

## ②都市デザインを描くために

次の150年を見据えるために

- 開港から150年を迎える節目の今、これまで続いてきたまちづくりの流れを途絶えさせることなく、新しい新潟の都市デザインを描くために、現在の新潟に至るまでの都市構造の変遷を振り返る



### 都市デザインの基礎

- 信濃川の恵みにより発展してきた新潟は、川がもたらす砂と水への対応を通じて、その都心を形成してきた
- 一方で、信濃川の流れに向かって垂直に交わる都市づくりを行うことで、新潟は発展の礎を築いてきた

## 2 新潟都心の都市構造の変遷と今後

参考資料：新潟歴史双書

### ①新潟都心の都市構造の変遷

#### 信濃川に並行する 横の都市づくり（面）

かつては堆積する土砂に対応して町の形を合わせてきたが、分水路開通などで、川の流れをコントロールできるようになり、埋め立てをはじめ水辺利用に取り組んでいる。

1869 開港  
明治  
大正  
昭和  
平成

① 湊が浅くなり使えなくなったため町を現在の位置に移転させ、信濃川に並行し町の軸となる堀を掘った。

② 開港時には河口部に税関が置かれ開港都市となるためのまちづくりが行われた。

③ 川沿いに鉄工所や造船所が、また同じころ駅が新潟に立地し、鉄道がつながることで、新潟が産業都市としての顔を持つようになった。

④ 産業を支える近代港が構築された。後には様々な用途で活用される。

⑤ 信濃川の沿岸は、万代シテイ、やすらぎ堤、芸術文化会館などが整備され、賑いや憩いの場所となってきた。

#### 信濃川に垂直な 縦の都市づくり（縦軸）

信濃川に沿って層のように分布する新潟の町と町をつなぐことで、異なる新潟の機能を一体化し、さらなる発展を導いてきた。代表的かつ重要な軸は、都心軸。

1869 開港  
明治  
大正  
昭和  
平成

A 小路：信濃川や堀に直交する小路を導入した。砦谷小路は町の中心にあった奉行所と町会所をつなぐ小路で、新潟町と沼垂町をつなぐ交通は舟運によるものだった。

B 萬代橋：新潟町と沼垂町をつなぎ、その後の新潟の発展の礎を築いた。

C 砦谷小路：萬代橋と新潟の奉行所跡をつなぎ、初期の都市計画で新潟の軸とされた。

D 東大通：新しい新潟駅と、旧萬代橋東詰を結ぶ大幅員道路として設計され、陸の玄関口のメインストリートとなった。

E 新潟駅：高架化によって新潟駅南北の市街地が一体化し、さらなる拠点性の向上をめざす。

### ②今後の都市デザイン

- 開港から150年、新潟の都心は信濃川に向かって層状に拡がり、それらの市街地が縦の軸によって深くつながり発展してきた
- 層状に拡張した市街地の中では、さらにその空間が高度化・多機能化し、今まで発展を支えてきた都市機能の更新や身近なまちづくりが始まっている
- これからの新潟都心の都市デザインは、それぞれの面の成り立ちや特色を活かしたまちづくりの上に、みなとまちの発展の歴史を、歩行者や公共交通で移動する人が実感できる、信濃川や港を核としたまちづくりを展開する

# 3 新潟都心の都市デザイン

## ①都市デザインの出発イメージ

新潟を特徴づけてきた、奉行所から始まる軸の都市づくりは、150年かけて新潟駅へとつながってきた。  
開港150周年を契機に、今度は新潟駅から、地域への愛着と誇りを醸成するような、人を中心とする新しい新潟の軸を考える。

### 新潟駅から始まる新しい新潟の軸とは…

- かつて信濃川に並行して堀と通りが設けられ、それが新潟の都市構造となったように、今度は、信濃川に向かう新しい新潟の軸として、都市構造を構築する
- それぞれのエリアで特色あるまちづくりが展開され、通して歩けばこれまでの新潟の歴史を理解できるような軸を目指す（新潟駅～古町間で約2km）
- 将来的には、この軸が新潟の都市イメージとなり、新潟にとっての「都市」のアイデンティティとなることを目指す

参考イメージ

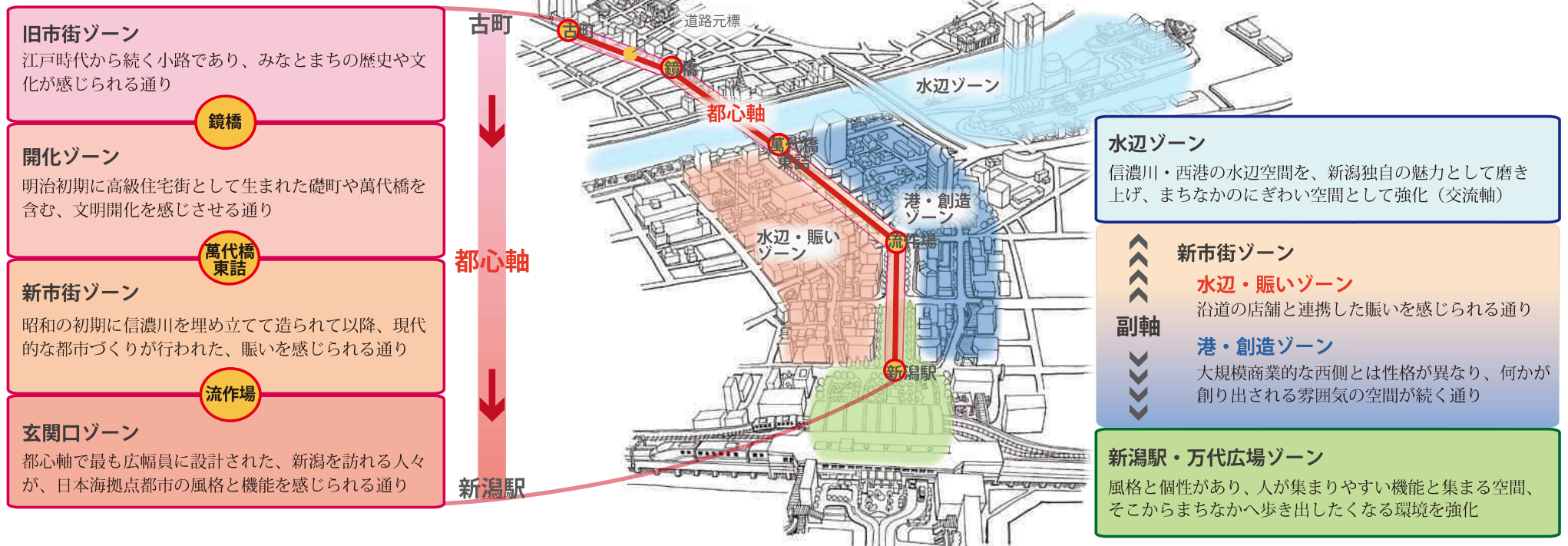


シャンゼリゼ大通り(パリ)…約2km



御堂筋(大阪市)…約4km  
※写真はイルミネーションイベント

## ②新潟駅から始まる取り組み



# 4 次世代のまちづくりに向けて

開港から 150 年をかけて形成されてきた不動の軸（新潟駅～古町）を、次世代のアイデンティティとしていく

## 旧市街・開化ゾーン

- 堀～通り～小路の町割りを活かす
- みなとまちの歴史・文化的な街並みや花街文化・食文化を活用する
- 様々な都市機能の集積・回帰によるまちづくり

## 副軸

### 弁天ルート（水辺・賑いゾーン）

- 沿道の店舗と連携してイベントやオープンカフェにより、訪れた人がより開放的な賑いを感じられる
- 新潟らしさを感じながら水辺へと誘われる仕組みづくり

## 水辺ゾーン

- 水辺空間を新潟独自の魅力として磨き上げ、まちなかの賑いを創出する
- やすらぎ堤と、橋・道路・建物といった水辺周辺の空間を一体的につなげる

## 都心軸

### 東大通ルート（新潟駅・万代広場ゾーン）

- 新潟を訪れる人々が都心軸を望む時、日本海拠点都市の風格が感じられる
- 駅前広場から都心軸、水辺・賑いゾーン、港・創造ゾーンへと導かれ、まちなかへ歩き出したくなる

## 副軸

### 花園ルート（港・創造ゾーン）

- 創作活動やリノベーションなど、新しく何かが創りだされる雰囲気を感じられる
- 駅から港へつながる雰囲気づくりや、レンタサイクルなどで楽しく快適にアクセスできる環境を創出する

